

渡り鳥保全調査報告 1997年度 - 鳥獣保護区・休猟区の鳥類相 - *

福井県自然保護センター¹

はじめに

人間活動と自然保護の調整は難しい問題であるが、行政としては、野生生物保護のために生息環境の保全や保護区の設定などを行なうことが必要である。そのためには、科学的データが不可欠であり、少なくとも基礎となる生物相を把握しておくべきであろう。

福井県では、県内に生息する鳥類相を明らかにするために、1969年度よりガンカモ科鳥類生息調査を、1977年度より渡り鳥保全調査を継続している。これらのうち渡り鳥保全調査は、各年度に場所や環境を変えて実施されている。1986年度から1990年度までは山麓部森林の、1991年度は都市部の、1995年度は海岸の、1996年度は垂高山の鳥類相について調査されてきた(福井県県民生活部自然保護課 1989, 福井県自然保護センター 1993, 1994, 1997, 1998)。しかし、鳥類の保護を行政に反映させるには、鳥獣保護区でのモニタリングが直接的で有効であり、1992～1994年度の3年をかけて鳥類相の調査が行なわれてきた(福井県自然保護センター 1995a, 1995b, 1996)。今回は、設定予定の鳥獣保護区と主な休猟区の鳥類相とその繁殖状況について調査してみた。

調査地と方法

調査は、1997年5月14日～8月18日の夏期と1997年11月3日～1998年2月4日の冬期に、福井県内の7カ所の設定予定地を含む鳥獣保護区と12カ所の休猟区で行なった(図1, 表1)。調査地内に0.7～4.5kmの定線を設定し、鳥類が出現しやすい朝方に歩いて、出現したすべての鳥類の種と片側25m(幅50m内)の個体数を記録した。また、営巣、育雛、巣立ち雛を確認した場合に繁殖していると判断した。

結果と考察

記録された種とその学名および観察密度を表2に掲載した。

計11目31科83種の鳥類が記録された(表2)。福井県産の鳥類は、1982年から1997年までに計292種が記録されている(福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会 1998)。今回は、そのうちの28.4%が記録されたことになる。これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の絶滅危惧 B類のクマタカが前坂休猟区で、絶滅危惧 類のハヤブ

* 福井県自然保護センター研究業績 第60号
1. 〒912-0131 福井県大野市南六呂師169-11-2
執筆者: 大迫義人

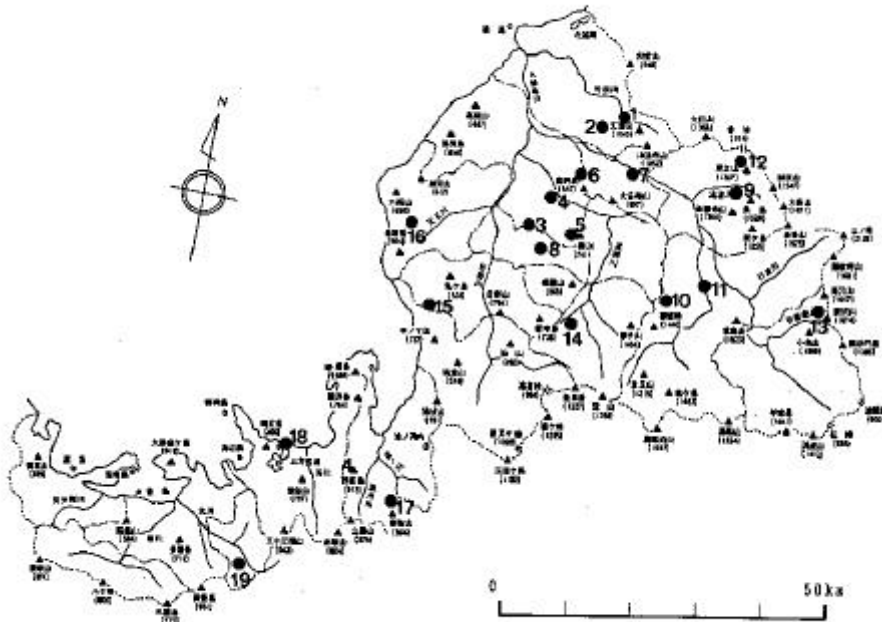


図1. 調査地の位置図。

Fig.1. Location of the study areas.

表1. 1997年度の渡り鳥保全調査の概要。

Table 1. Study areas, observers, dates and general results of the fiscal 1997 bird census.

調査地 Study area	メッシュ番号 Mesh number	調査者 Observer	調査日 Date		調査距離(km) Route length		種数 No. species		個体数 No. individuals	
			夏期 Summer	冬期 Winter	夏期 Summer	冬期 Winter	夏期 Summer	冬期 Winter	夏期 Summer	冬期 Winter
			1. 龍ヶ鼻がら鳥獣保護区	371,399	古畑重義	8/18	1/4	2.0	4.0	11
2. 丸岡鳥獣保護区	469,470	"	5/14	1/30	4.0	2.0	17	17	73	92
3. 文殊山鳥獣保護区(予定)	556	柳町邦光	7/13	12/20	2.5	2.5	20	19	105	174
4. 東郷鳥獣保護区	477	"	7/13	1/17	2.0	2.0	19	21	120	275
5. 浄教寺休養区	441,478	吉村芳武	7/18	1/17	3.0	3.0	16	20	80	123
6. 吉野休養区	438,474	鈴川文夫	7/13	12/14	0.7	1.6	12	16	25	15
7. 山王休養区	352	"	7/20	12/6	2.0	1.7	14	16	31	44
8. 河和田鳥獣保護区(予定)	520	高田雄治	8/8	1/3	4.5	4.5	23	16	87	365
9. 芳野ヶ原鳥獣保護区(予定)	180	坪内和夫	8/1	11/3	4.5	4.5	17	15	61	115
10. 黒谷休養区	262	"	7/31	11/24	4.0	4.0	21	15	147	61
11. 真名川休養区	188,211	三原 学	7/10	2/4	4.0	3.5	22	22	160	60
12. 木根橋休養区	178,179	"	7/21	12/19	3.5	3.5	20	16	73	40
13. 前坂休養区	44,63	"	7/7	12/16	3.5	3.5	17	16	67	34
14. 菅生休養区	388,389	横山大八	7/20	1/18	3.3	3.3	18	14	78	105
15. 湯谷休養区	794,795	吉田一朗	7/21	-	1.7	-	15	-	71	-
16. 大王丸休養区	851,852	"	7/26	-	2.7	-	13	-	44	-
17. 疋田休養区	771,772	小嶋明男	7/20	1/10	2.5	2.5	18	24	69	125
18. 岳山鳥獣保護区	958	"	8/6	12/29	2.2	2.2	26	27	126	126
19. 熊川休養区	982,983	高橋繁彦	7/19	1/17	2.0	2.0	10	9	18	19
計19カ所		11人	計36日				計11目31科83種			

1: 図1を参照。

2: 福岡県自然環境管理計画でもちいるメッシュ番号。

サが岳山鳥獣保護区で記録された。

また、計1目4科4種の鳥類の繁殖が確認された(表2)。しかし、夏期に観察された種は、その確認がなくても繁殖の可能性はある。

すべての鳥獣保護区で記録されたものはヒヨドリとホオジロで、以下、75.0%より高い観察頻度で、高かった順にキジバト、セグロセキレイ、ウグイス、トビ、シジュウカラ、ヤマガラ、スズメ、ハシボソガラスであった。これらはすべて、本県では、ほぼ周年、観察される種であった(福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会 1998)。

最も記録種数の多かった調査地は岳山鳥獣保護区で、計38種が記録された。次いで真名川休猟区(計35種)、疋田休猟区(計33種)、文殊山鳥獣保護区(予定)(計28種)、河和田鳥獣保護区(予定)(計28種)、黒谷休猟区(計28種)などが続いた。調査日時の設定や調査者の識別能力の違いによる差も存在するが、休猟区でも多くの種の生息が確認された。

現在、各調査地での調査日数は、夏期と冬期の計2日だけであり、生息種を明らかにするには不十分であり(大迫ほか 1996)、さらに、種の識別や繁殖状況を明らかにするには、標識調査も含めた精密な調査が必要である(大迫 1989)。また、鳥獣保護区や休猟区は、鳥獣の保護・繁殖の目的で設定されたものであり(福井県 1997)、そのためには、調査・管理の体制も整備することが求められる。

謝 辞

現地調査を12人の方に行なっていただいた(表1)。ここに記して感謝する。

要 約

1997年度の夏期と冬期に、福井県内の計19カ所の予定地を含む鳥獣保護区と休猟区で鳥類相とその繁殖状況を調査した。のべ36日の調査で計11目31科83種の鳥類が記録され、計1目4科4種の鳥類の繁殖が確認された。これらのうち、環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の絶滅危惧 B類のクマタカが前坂休猟区で、絶滅危惧 類の、ハヤブサが岳山鳥獣保護区で、サンショウクイが文殊山鳥獣保護区と疋田休猟区で記録された。これからはこれらの貴重種の保全も含め、鳥獣保護区や休猟区設定の目的を達成するために調査・管理ができるような体制を作ることが必要であろう。

引用文献

- 福井県. 1997. 第8次鳥獣保護事業計画書. 41pp. 福井県.
福井県県民生活部自然保護課. 1989. 渡り鳥保全調査報告書～昭和61年度から63年度までの記録～. 10pp. 福井県.
福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会(編). 1998. 福井の鳥とけものたち. 222pp. 福井県.
福井県自然保護センター. 1993. 渡り鳥保全調査報告 - 1989年度・1990年度 -. Ciconia 2:1-13.
福井県自然保護センター. 1994. 渡り鳥保全調査報告 1991年度 - 都市鳥の生息状況 -. Ciconia 3:1-7.

